



ユニチカ株式会社

2023年3月期
第2四半期
決算説明会

2022年11月22日

2022年度 第2四半期 実績

- ※ 価格改定と高付加価値品の販売伸長により、売上高は前年同期比で+36億円（+6.5%）の増収となったが、価格改定を上回る原燃料価格や輸送コストの高騰の影響を受け、営業利益は前年同期比で▲19億円（▲55.4%）の減益。
- ※ 外貨建資産の評価益を中心に為替差益28億円を計上。経常利益、四半期純利益は前年同期比で増益となった。

2022年度 業績予想

- ※ 第2四半期の業績を踏まえ、通期の業績予想を修正。
- ※ 2022年5月13日公表の予想に対し、営業利益は減少、経常利益、当期純利益は増加
- ※ 円安傾向や原燃料価格の高騰は第3四半期以降も続くとみられ、引き続きコストダウンや価格改定に取り組むも、当初予想より営業利益が下振れる見込み。

- 1 2023年3月期第2四半期 決算概要**
- 2 各事業セグメントの状況**
- 3 2023年3月期業績予想**
- 4 補足資料**

1

2023年3月期第2四半期 決算概要

売上高

591億円 (前年同四半期 555億円 / 前年同四半期比 +36億円)

高付加価値品を中心に販売が伸長したこと、価格改定の効果により前年同四半期比+36億円の増収

営業利益

15億円 (前年同四半期 34億円 / 前年同四半期比 ▲19億円)

原燃料価格の上昇により大きなマイナス影響を受けた。高付加価値品シフトや価格改定では補いきれず、前年同四半期比▲19億円減益の15億円

経常利益

39億円 (前年同四半期 29億円 / 前年同四半期比 +10億円)

円安による外貨建資産の評価益を中心に、為替差益28億円を計上し増益

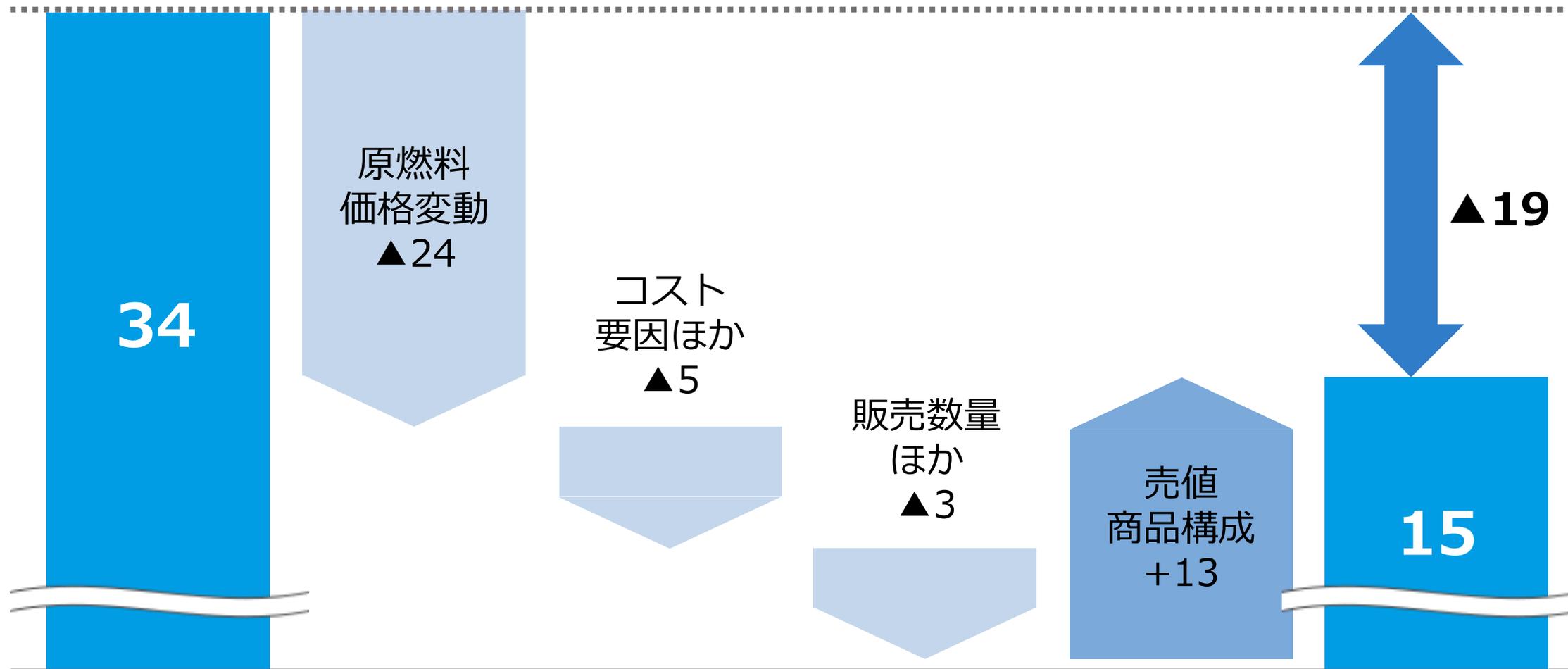
四半期
純利益**29億円** (前年同四半期 22億円 / 前年同四半期比 +7億円)

経常利益同様、為替差益の計上により増益

連結合計 (単位：億円)	2020年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	2022年度 2Q実績	前々期比	前期比
売上高	548	555	591	+43	+36
売上総利益	132	141	128	▲4	▲13
営業利益	28	34	15	▲13	▲19
営業利益率	(5.1%)	(6.1%)	(2.6%)	(▲2.5%)	(▲3.5%)
経常利益	16	29	39	+23	+10
特別利益	35	7	0	▲35	▲7
特別損失	10	9	5	▲5	▲4
四半期純利益	37	22	29	▲8	+7
減価償却費*	22	22	21	▲0	▲0
設備投資*	30	36	38	+8	+2

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



2022年3月期
第2四半期

2023年3月期
第2四半期

(金額単位：億円)	2022年 3月末	2022年 9月末	前期末比 増減
資産合計	1,914	1,957	+43
流動資産	809	810	+0
固定資産	1,105	1,147	+43
負債合計	1,483	1,495	+12
純資産合計	431	462	+31
株主資本	399	425	+26
その他の 包括利益累計額	14	17	+4
非支配株主持分	18	19	+1

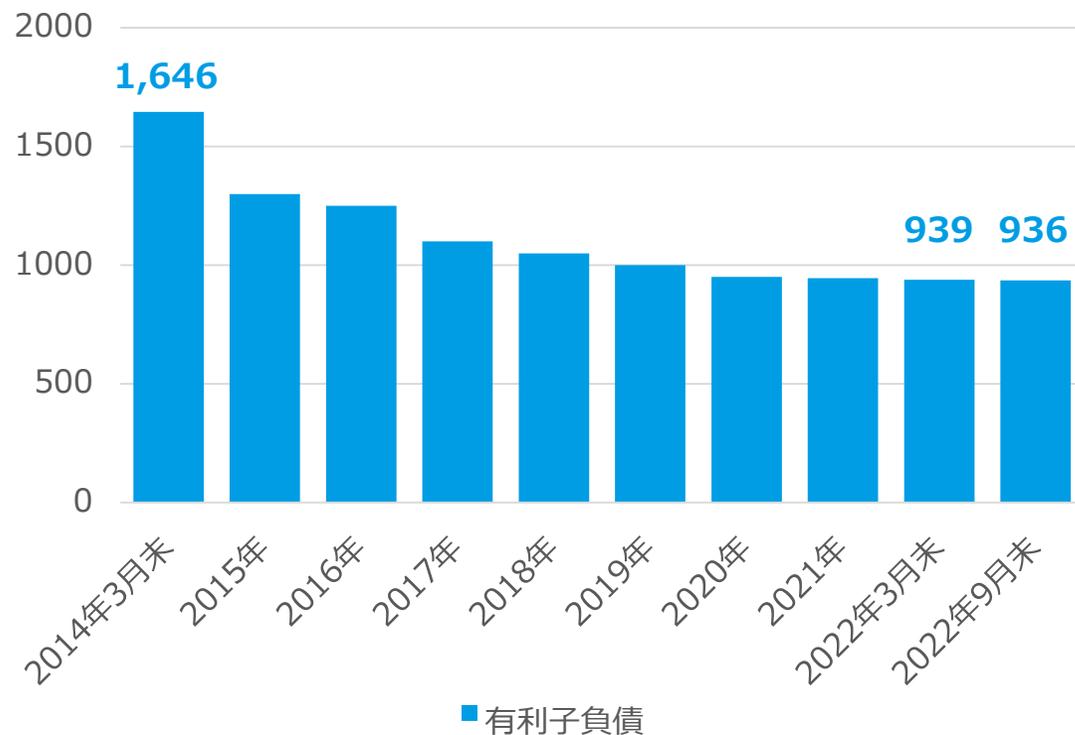
(金額単位： 億円)	2021年度 2Q実績	2022年度 2Q実績	前年同期比 増減
営業活動CF	51	1	▲50
投資活動CF	▲43	▲45	▲3
財務活動CF	▲20	▲7	+14

(金額単位： 億円)	2022年 3月末	2022年 9月末	増減
現金・現金 同等物残高	184	138	▲46

棚卸資産の増加に伴い運転資金が増加。営業活動CFにマイナス影響。

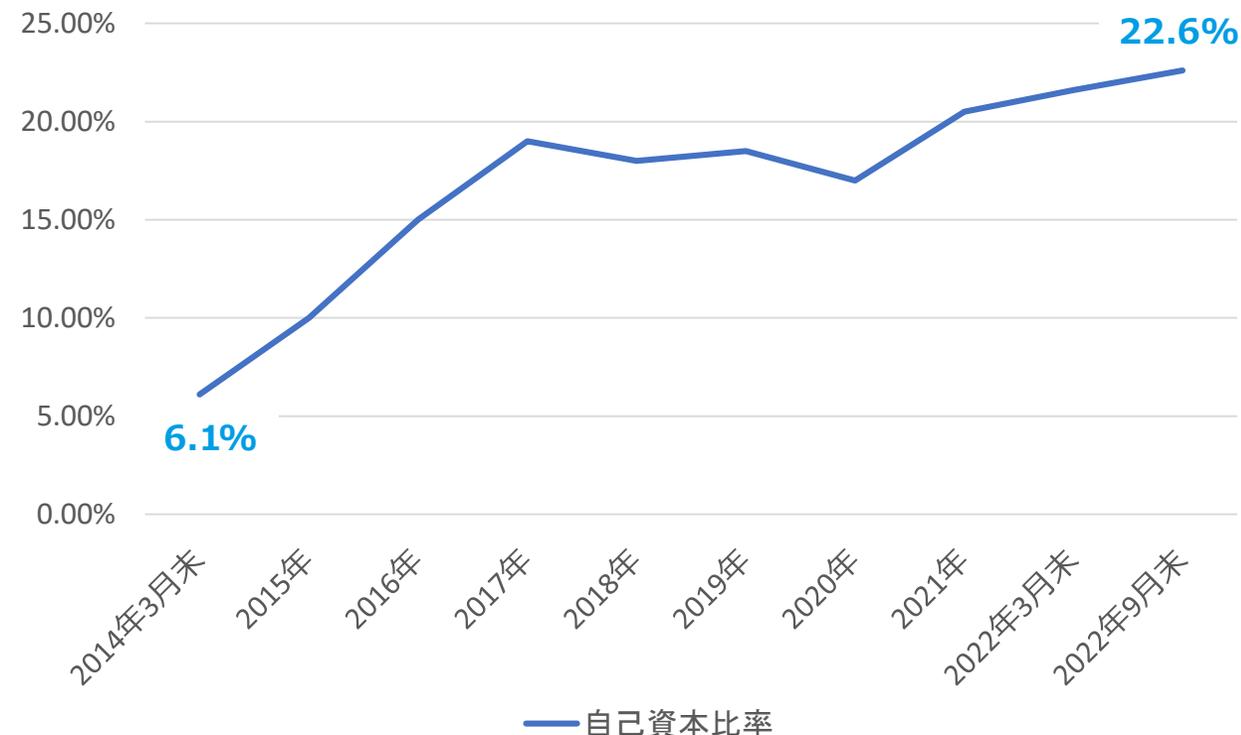
有利子負債の推移

2022年9月末は936億円となり、着実に削減は進んでいる。
現預金を差し引いたネット有利子負債は791億円



自己資本比率の推移

2022年9月末は2022年3月末と比較して1.0ポイント増加し、22.6%となった

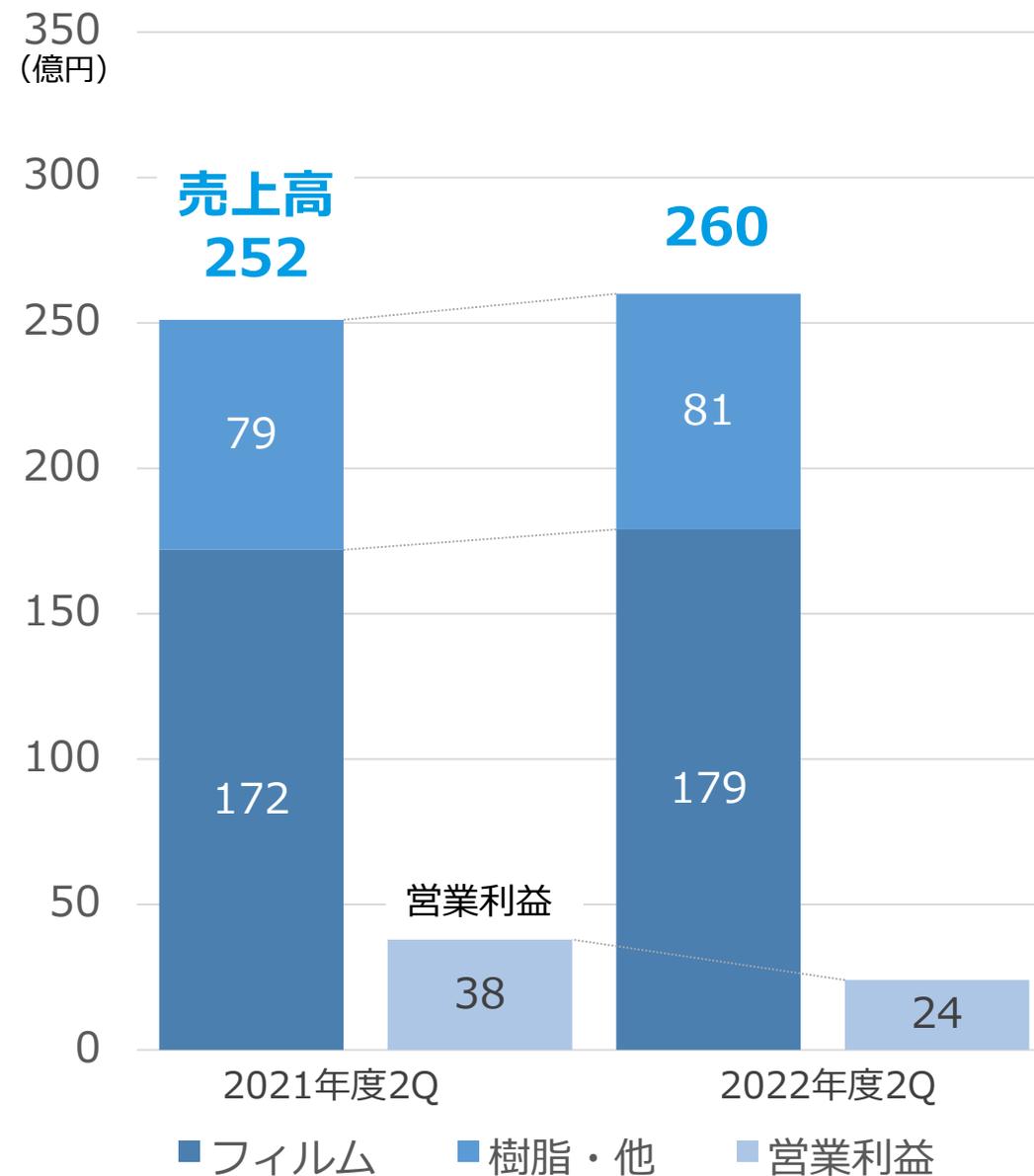


2 各事業セグメントの状況

セグメント別 (金額単位：億円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同四半期比増減	
			金額	率
売上高	555	591	+36	+6.5%
高分子事業	252	260	+9	+3.5%
機能資材事業	168	178	+9	+5.4%
繊維事業	135	153	+18	+13.3%
その他	0	0	+0	-
営業利益	34	15	▲19	▲55.4%
高分子事業	38	24	▲14	▲37.1%
機能資材事業	0	1	+1	-
繊維事業	▲4	▲10	▲6	-
その他	▲0	▲0	▲0	-

金額単位：億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
売上高	252	260	+9
フィルム	172	179	+7
樹脂・他	79	81	+2
営業利益	38	24	▲14



フィルム・樹脂とも原燃料価格の影響を大きく受け減益

フィルム 包装分野

食品包装の需要は堅調も、販売数量は頭打ち。価格改定の効果と、バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の販売伸長により売上増。価格改定を超えるペースで原燃料価格が高騰し、営業利益にマイナス影響。

工業分野

電子材料関連需要が好調を維持。シリコーンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」などの高付加価値品も販売は好調であったが、原燃料価格高騰に価格改定が追い付かず。ユニアミドは電子部品用途の需要が伸びず販売減。

樹脂

エンジニアリングプラスチック

自動車減産による部品需要減と、中国ロックダウンによる工場稼働減の影響を受けたが、レジャー用途の販売が好調に推移。

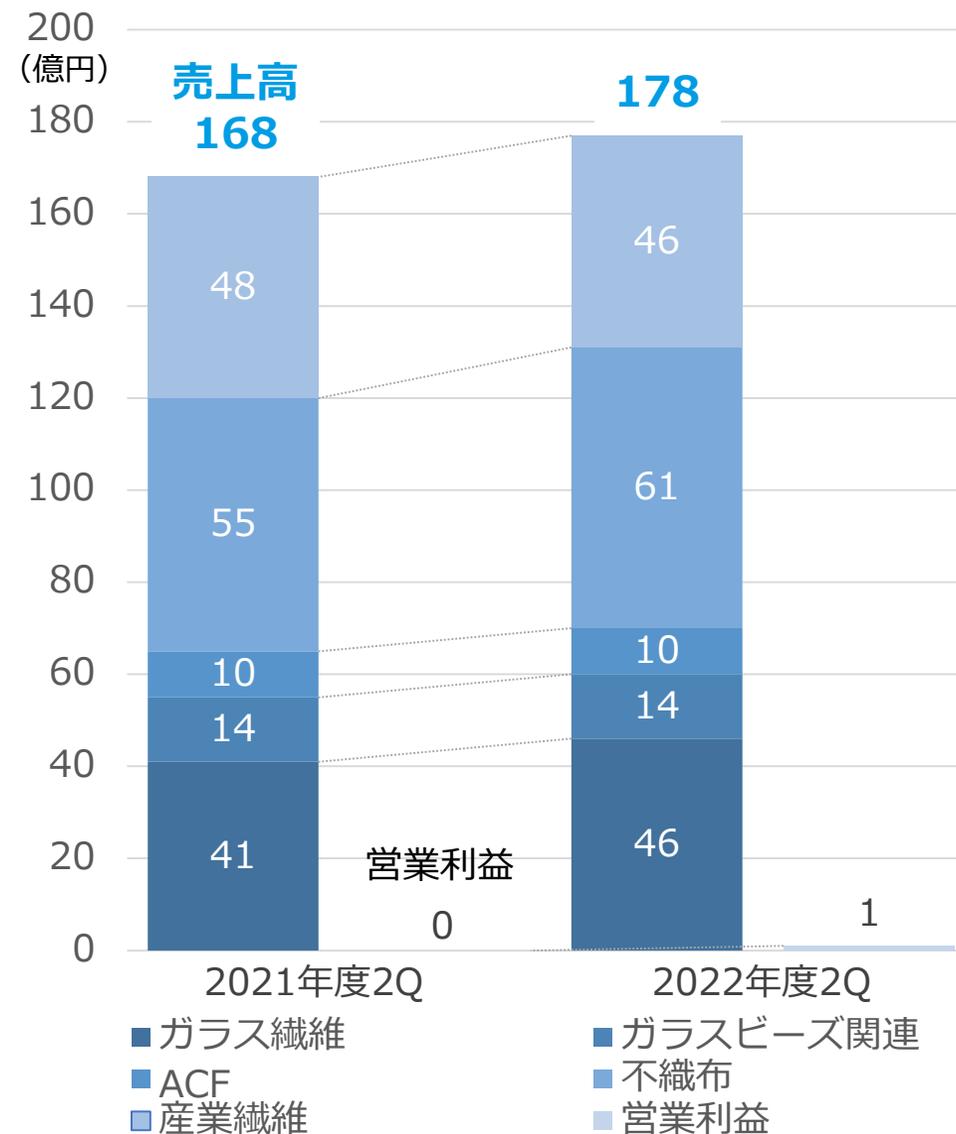
その他の機能樹脂

医薬品容器向けPET樹脂の販売が回復。水性樹脂エマルジョン「アローベース」の海外販売が伸長。



金額単位：億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
売上高	168	178	+9
ガラス繊維	41	46	+5
ガラスビーズ 関連	14	14	+0
活性炭繊維 (ACF)	10	10	▲0
不織布	55	61	+6
産業繊維	48	46	▲2
営業利益	0	1	+1



建築土木用途の回復が続く。ガラス繊維事業が好調に推移。

ガラス繊維

産業資材分野

設備投資需要の回復に伴い、テント、シート等の建築用途の販売が順調に推移。

電子材料分野

期末に市況が急速に悪化したのが、期前半の好調な市況により、全体では前年同四半期を超える販売状況。超薄クロス、低熱膨張クロス等の高付加価値品の販売が伸長。

ガラス ビーズ関連

道路用途は豪雨災害の影響、反射材用途は欧州の市況悪化の影響を受けた。
工業用途はブラスト用途など各用途で堅調。

活性炭繊維 (ACF)

主力の浄水器用途は堅調であったが、自動車用途は半導体不足に起因する工場稼働減の影響で販売減。



産業繊維の販売が減少。不織布は販売量回復と価格改定で収益改善

不織布

自動車用途は、生産台数減少の影響で苦戦。

産業資材は需要が緩やかに回復。スキンケア用途は、人流の回復と、猛暑による気候要因により販売が回復。

海外子会社（タスコ）は価格改定の効果が発現。

産業繊維

短繊維は国内、輸出とも販売が減少。

ポリエステル高強力糸は、建築土木用途で緩やかな回復基調が続いたが、その他の用途で販売苦戦。

いずれも、原燃料高騰のマイナス影響を大きく受けた。



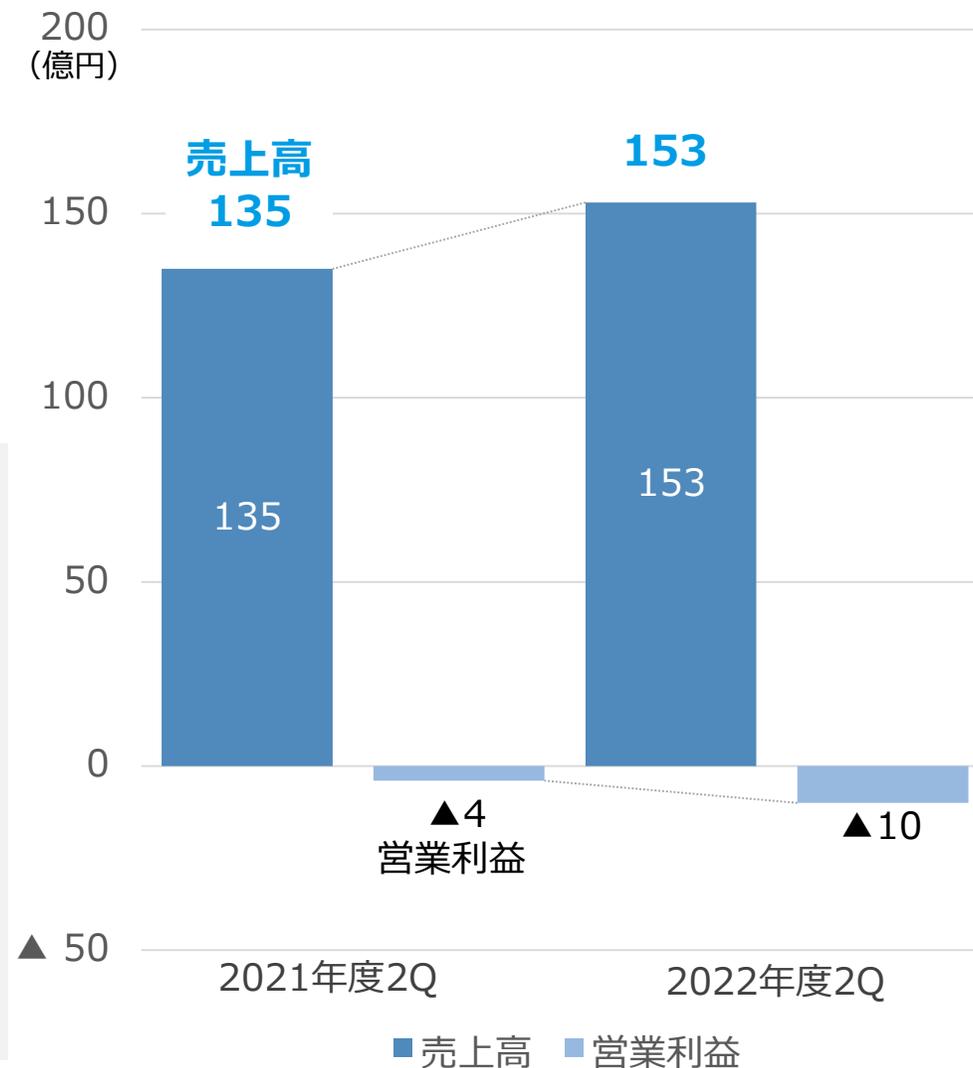
金額単位：億円

	21年度2Q	22年度2Q	増減
売上高	135	153	+18
衣料繊維・他	135	153	+18
営業利益	▲4	▲10	▲6

衣料分野で緩やかに回復も、サプライチェーン各過程のコストアップが大きく、大幅な減益。

衣料繊維・他

ユニフォーム、レディス、寝装などで需要は緩やかに回復。海外へのデニム生地輸出が好調で売上高は伸長したが、原燃料費、円安による海外での加工コスト増、運送費高騰など、コストアップが大きく、営業赤字が拡大。



3 2023年3月期業績予想

(金額単位：億円)	2022年 3月期実績	2023年 3月期予想	前期比増減	(ご参考) 2022年5月 時点予想
売上高	1,147	1,260	+113	1,260
営業利益	60	39	▲21	55
経常利益	64	50	▲14	33
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	26	+4	15

(金額単位：億円)	売上高			営業利益		
	2022年度 3月期実績	2023年 3月期予想	増減	2022年度 3月期実績	2023年 3月期予想	増減
高分子	508	563	+55	67	49	▲18
機能資材	344	361	+17	0	3	+3
繊維	294	336	+42	▲6	▲13	▲7
その他	1	0	▲1	▲1	0	+1
合計	1,147	1,260	+113	60	39	▲21

高分子

原料は高止まり、燃料は更なる値上がりが見込まれ、引き続き価格改定には取り組むが、通期で増収減益の見通し。

機能資材

原燃料高騰の影響が続き、半導体関連需要の急減速の影響が見込まれるが、増販や価格改定でカバーし、通期で増収増益となる見通し。

繊維

価格改定とコストダウンを実行し、増販効果と合わせて、上期対比では赤字縮小を見込むも、通期で増収減益の見通し。

Growth

強固な事業ポートフォリオの構築

- 電子材料、食品包装フィルムなどの用途で高付加価値製品の販売が伸長
- ケミカルリサイクル製品の販売が拡大

※コロナ禍における事業環境の激変で新たな事業課題が発生

Global

グローバル事業展開の推進

- ▲エンブレムアジアの1万トン生産増強実現も、収益貢献に遅れ
- ヨーロッパ現地法人設立、タイでのフィルム販売体制の構築
- ×コロナ禍においてグローバル人材の育成・強化は思うように進まず

Governance

社内風土・意識改革

- 全社品質保証体制の構築
- ▲事業継続におけるリスクマネジメント体制を整備中
- ▲製造現場の強化、技術伝承については引き続き継続した取り組みが必要

サステナブル推進プロジェクトでの議論を踏まえ、2021年7月に8つの優先課題を特定。
2021年12月に設立したサステナビリティ委員会にてKPIを確認、フォローする体制を整備。

	優先課題	KPI	2021年度の 実績	2030年度の 目標	関連するSDGs
1	安全で安心な暮らしの実現	3つの暮らしに 貢献する 素材の売上高	2019年度比 1.0倍	2019年度比 2.6倍	
2	便利で快適な暮らしの実現				
3	環境と共生する暮らしの実現				

サステナビリティへの取り組み（優先課題）（2）

	優先課題	KPI	2021年度の実績	2030年度の目標	関連するSDGs
4	環境と共生する 企業活動の推進	CO ₂ 排出量 (国内全グループ)	2013年度比 21%減	2013年度比 46%減	
		産業廃棄物場外処理量 (国内全グループ)	2019年度比 6%減	2019年度比 10%減	
5	人権の尊重	人権関連教育の実施率 (海外を含む全グループ)	39% (国内のみ)	20% (5年で全グループ 1巡)	
6	働きがいのある 会社づくり	休業災害発生件数 (国内全グループ)	1件	0件	
		健康経営優良法人認定 (ユニチカ(株)及び一部グループ会社*)	未認定	①認定取得 ②ホワイト500	
7	ダイバーシティの 推進	女性管理職比率 (海外を含む全グループ)	5.9%	20%	
		本社新卒採用（総合職）女性比率 (ユニチカ(株)本体)	16%	30%	
		男性育休取得比率 (国内全グループ)	31% (ユニチカ(株)及び 一部グループ会社*)	50%	
8	サプライチェーン マネジメントの強化	CSR調達アンケート回答率 (主要取引先)	87% (2022年度実施)	80%	

*日本エステル(株)、ユニチカトレーディング(株)、ユニチカテキスタイル株、ユニチカグラスファイバー(株)、ユニチカガーメンテック株の5社

4 補足資料

(金額単位：億円)	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
高分子	125	126	127	130	131	129	—	—
フィルム	86	86	86	88	90	89	—	—
樹脂・他	39	40	41	42	41	41	—	—
機能資材	84	84	87	89	89	88	—	—
活性炭繊維（ACF）	5	6	6	5	5	5	—	—
ガラス繊維	20	21	21	22	24	22	—	—
ガラスビーズ関連	7	7	8	8	7	7	—	—
不織布	28	27	28	31	30	31	—	—
産業繊維	24	24	24	23	23	23	—	—
繊維	71	64	71	89	76	77	—	—
衣料繊維・他	71	64	71	89	76	77	—	—
合計	281	274	285	307	296	295	—	—



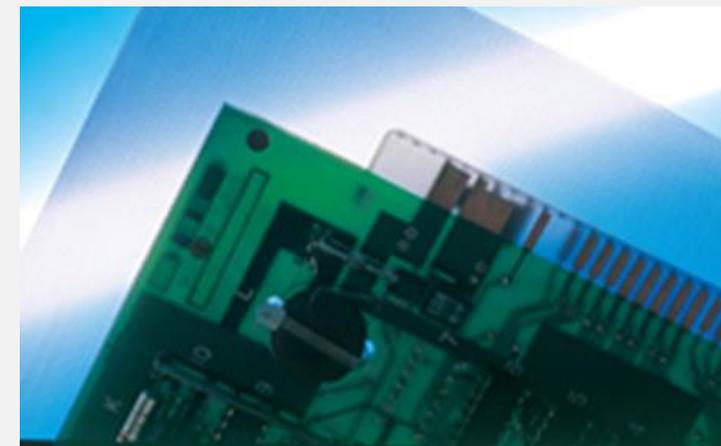
バリアナイロンフィルム 「エンブレムHG」

惣菜やレトルトコーン向けなどで、
ボイル、レトルト使用に適した特性
が高く評価された。



シリコーンフリー離型ポリエス テルフィルム「ユニピール」

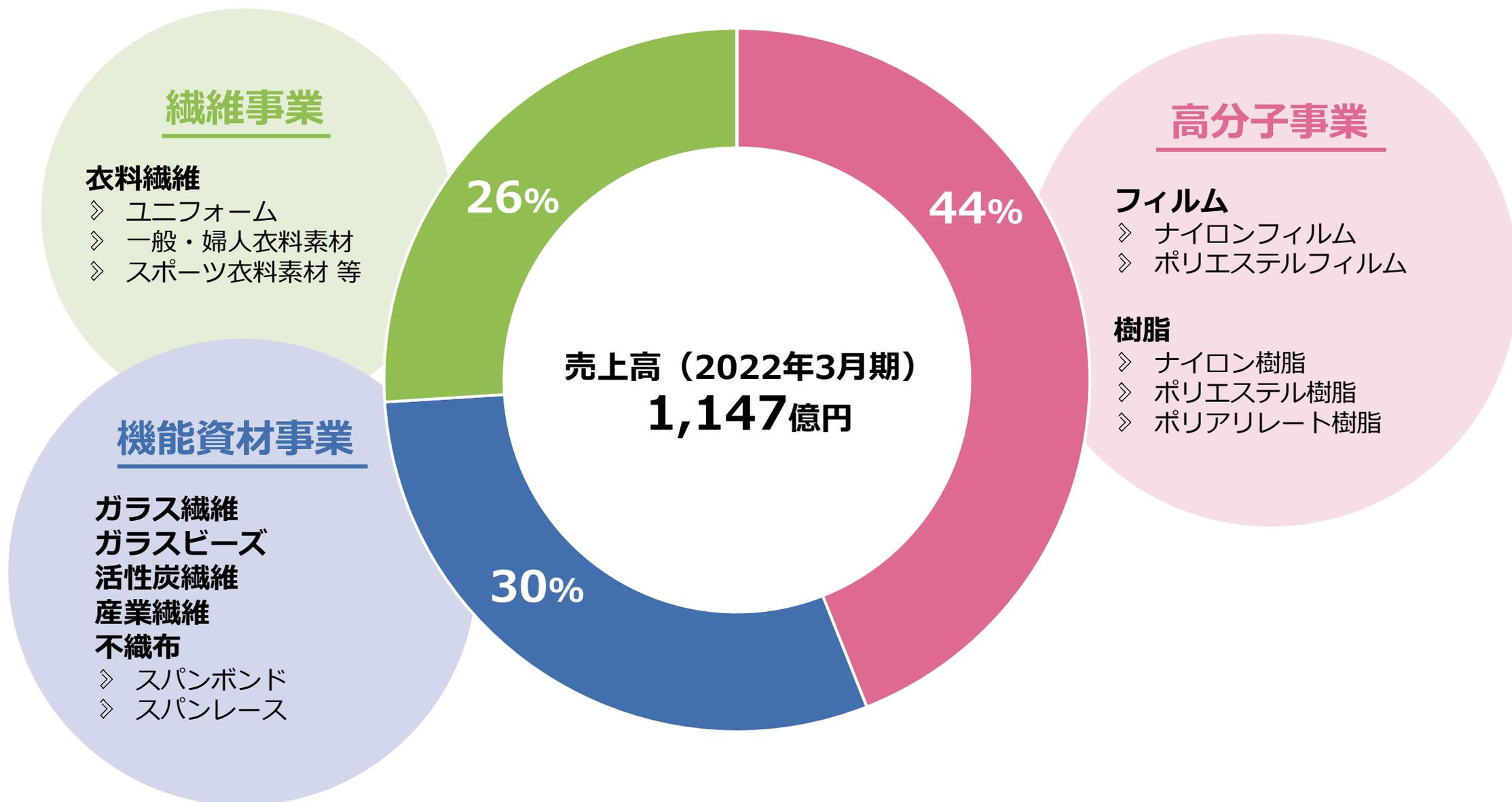
コート剤にシリコーンを使用せず、
電子部品製造工程の汚染を防ぐ効果
が評価された。



電子材料向け特殊ガラスクロス

超薄物や、低熱膨張性などの特殊な
機能が高く評価された。

	製品	国内シェア (当社調べ)	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリアリレート樹脂	当社独自	自動車部品 電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能資材	ガラスクロス (産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用 建築土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築土木資材 農業資材、衛生材料 生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材 医療資材	天然素材の シート化技術



ご注意

**本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。**